

題字 故前田和二郎名誉教授  
発行所 東京都新宿区信濃町35  
慶應義塾大学医学部  
外科学教室同窓会(刀林会)  
発行人 松本純夫

# 一般社団法人登記完了について



刀林会理事長  
学校法人国際医療福祉大学  
副理事長 名誉学長  
北島 政樹 (45回)

世大との連携)を決定いたしました。

慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会「刀林会」は塾祖・福澤諭吉先生の創始の理念に込められ、昭和15年12月15日に設立され、その後昭和56年6月1日に現在1,400名の会員を要す外科学教室同窓会として発展してまいりました。福澤諭吉先生の建学の精神である「独立自尊」自己に誇りを持ち、自主独立の判断に基づき行動できる人や「自我作古」、変動期に於いて従来の発想にとらわれない柔軟な解決を考案出来る進取の気性を持つ重要性が現在に於いて会員一人一人に脈々と継承されているといっても過言ではありません。私は医学部の病院長・医学部長そして医学部教授退任後も、組織は常に変革を求め、イノベーションが必要であるという事を理念としてきました。そこで刀林会に将来構想委員会を設置し(1)組織の社団法人化、(2)国際展開(韓国・延

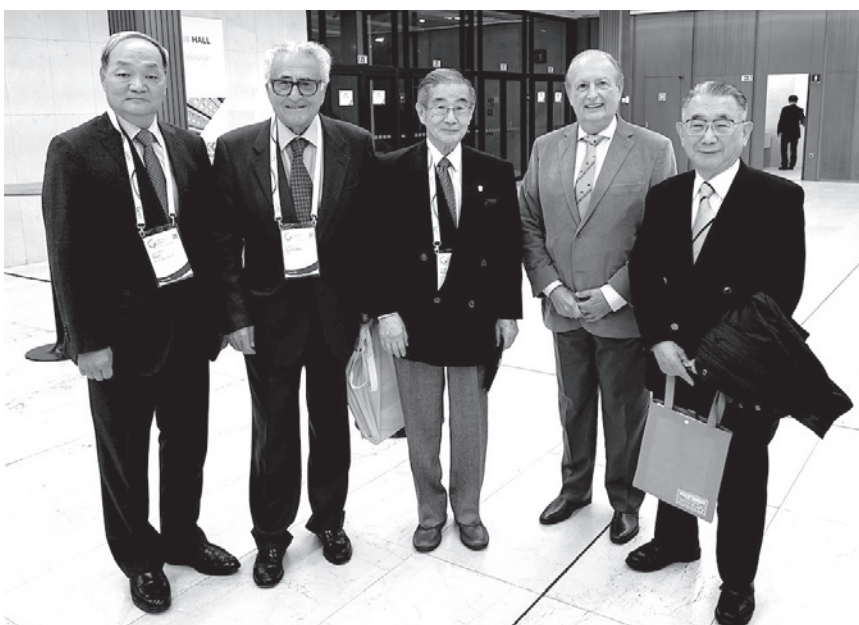
世大との連携)を決定いたしました。外科同窓会を一般社団法人化に改組して同窓会の組織を明確化し、新たな発展と展開を期することになりました。法人化により多くの利点が生じるからであり、特に従来の任意団体と異なり、信頼性の高い組織として認識され、諸事業に対する契約、銀行口座の開設および経費として多範囲に認められるなど法人化の数々のメリットがあります。さらに相続税や社員の法人に対する債務に負担は不可であり、しかし法人税がかかることなどがデメリットとして考えられます。将来的に収益事業をした場合には法人税が課税される事になりますが、会費や寄付金には課税されません。2020年には外科学教室100周年を迎えますが、任意団体としてではなく一般社団法人として教室と共に主催するわけが

が、収益が生じた時には当然、税金を納付いたします。さらに今後、韓国・延世大学との国際交流が展開され、6月の総会では両者間でMOUが提議される事になります。提携先の大学に對しても信頼性が高くなると思われまふ。この刀林会の法人化は今後の事業として実施される刀林会員の留学支援あるいは外国からのファカルティーなどの受け入れに對してもお互いの組織間の信頼性が確立され容易に交流が実施される事になります。今回、法人化に際し、ご指導を賜りました堤淳一および堤健太郎弁護士、および岡田泰税理士の先生方には心より感謝いたします。



JHPSS2016 ポーランドにて

生前に御執筆いただきましたので掲載させていただきます。北島前理事長のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



2019年5月8～11日 第13回国際胃癌学会 チェコ プラハにて

## 追悼

### 北島政樹先生を偲んで

慶應義塾大学医学部  
外科(一般・消化器) 教授  
慶應義塾大学病院 院長

北川 雄光 (65回)

令和元年5月21日、我々刀林会理事長である北島政樹先生が急逝されました。先生のご逝去は、まさに「巨星墜つ」としか表現しようのない突然の別れでした。直前にプラハで開催された国際胃癌学会で一緒し、最愛の奥様と美しい街並みを散策されていたお姿が今も胸に焼き付いています。

北島先生が私たち当時のチーフレジデントの前に、新任の主任教授として颯爽と登場されたのは、1991年5月のことでした。今思うと現在の私より10歳も若かったはずの北島先生は、40代とは思えない圧倒的な自信と威厳に満ち溢れていました。先生がそれまで経験された多くの苦勞に裏付けられた「自信と威厳」であつたことが、その後少少ずつわかりました。慶大外科の指揮官となられた北島先生は、内視鏡外科の導入と普及、生体肝移植の開始、アジア初のロボット支援手術実施、医工連携の推進など、圧倒的な先見性とリーダーシップ、決断力で破竹

の勢いで次々と新たなプロジェクトを推進されました。一人の外科医が成し得る成果をはるかに超える快進撃に、我々教室員はワクワクしながら先生の背中を必死で追い駆けて行きました。その間、病院長、学部長として信濃町キャンパス全体を牽引されたことはまさに驚異的な活躍でした。2000年の記念すべき第100回日本外科学会学術集会テーマ「未来のため」に先生は「未来を見て、世界を見て」を唱えながら、我々を力強く導いてくださいました。あの頃は、まるで教室員全員が「文化祭や甲子園出場に向けて必死に努力する高校生」のように、自由に伸び伸びと自分のやりたいことに邁進できる夢のような時代でした。多様な人材のそれぞれの才能を見極め、それぞれに大きなチャンスを与え、組織を大きくする、それが真のリーダーの在り方であると今つくづく感じています。

2007年北島先生の跡を継いで教室運営をするこ

になりました。残された私たちにとっては余りにも辛すぎる別れです。全く衰えを見せることなく全速力で走り続けながら、ある日突然人生の幕を閉じられた先生は「幸せだった、先生らしくかった」と思うしか、気持ちの整理ができません。来月4月、第120回日本外科学会学術集会会頭講演のステージに立ったとき、座長席に先生がいらつしやらない光景を思い浮かべると平常心でいられるかどうか自信がありません。先生が高い空の上から見守つてくださっていると信じてこれからも「未来のため」をしっかりと生きて行きたいと思ひます。先生への深い感謝の気持ちを込めて、心か

# 平塚市民病院 院長退任 川崎市立川崎病院 院長就任



金井 歳雄 (59回)

私は昭和55(1980)年に医学部卒業し、昭和63年に外科チーフ出張として平塚市民病院に赴任、平成11年(1999)年から外科部長、平成25年から病院長を務めておりました。前病院長石山先生の時代に建物の耐震能不足が発覚し、病院建築計画が必要となり、病院長就任早々からキャッシュ不足という大きな問題に直面いたしました。さらに、重要診療科の医師の引き上げ問題や市サイドからの重要方針変更通告などにより、ダツチローのような危機的状態に追い込まれました。共に闘ってきた前事業管理者別所先生は任期途中で平成28年に

退職されましたが、諸角管理者が赴任され、共に難局を乗り切ってまいりました。具体的には、事務職まで含めた病院職員の意識改革、急性期医療を進めるための職員定数の増加と人材の確保、救命センター設置と総合入院体制加算取得、DPC係数増です。これらにより経営状況も上向き、平成30年度決算見込では医療収益は史上最大額で前年比10%超増、黒字決算となりました。平成31年3月に、新棟整備事業の完了と病院創立50周年記念式典を迎えるにあたり、私は平塚でやるべきことはやりきった充足感と、一方で市サイドとの信頼関係の限界を感じました。そして、時代が病院完結型から地域完結型へ変わっていく中で、病院も次のステージに行くためにリーダー交代をするべきと考え、愛着のある平塚市民病院を辞することを決めました。平成の30年間、支えていただいた外科の先輩医師、後輩医師、病院の看護士、医療職、事務職、消防職など全ての皆さんに感謝申し上げます。そして特に、

大きな負荷をかけることになった諸角管理者、山田新病院長(小児科)には、金井の考えを受け入れていただき、厚く厚く、お礼申し上げます。

そして、平成31年4月、川崎市立川崎病院に病院長として赴任いたしました。これは、増田川崎市病院事業管理者よりオファーをお受けしたものです。そこで勤務経験がないばかりでなく、偉大な歴史と伝統をもつ慶應の重点関連病院であり、任務の重さに躊躇しましたが、平塚でのタフな病院長経験でお役に立てるのではと考えました。そして、天谷医学部長、北川慶應病院長からのご支持もいただき、お引き受けする事にいたしました。昔から顔見知りの外科の仲間や同級生の支援をいただきながら、職員皆で、病院の将来を考えていくことで、新しい令和の時代の川崎病院の姿を構築していきたい、と考えております。外科学教室と刀林会の皆様には、引き続き、平塚、川崎への倍旧のご支援を、何卒よろしくお願いいたします。

# 水戸赤十字病院 院長就任



佐藤 宏喜 (62回相当)

平成31年4月14日付、水戸赤十字病院院長職を拝命いたしました。私は島根医科大学(現島根大学医学部)卒業後教室にお世話になり、所謂フレマン出張を水戸赤十字病院佐久間正祥(47回 現名誉院長)先生にご指導いただき、翌年同じ茨城県内にある晴嵐荘(現茨城東)病院での研修を経て帰室(乳腺班)、ポ

ストチーフ出張で平成元年に当院に着任し現在に至っております。

当院は大正12年日本赤十字茨城支部病院として開設され、昭和18年に水戸赤十字病院と改称、赤十字グループの一員として通常の診療業務の他に国際活動や災害救護などの役割を果たしてまいりました。歴史は95年を超えています。教室との関連は昭和55年、前述の佐久間正祥先生の着任に始まり(当時の教室幹事は乳腺班の恩師である榎本耕治先生(40回)と伺っております)、これまでに在籍した教室員は58名に上ります。現在の主たる病棟が完成した平成13年当時500床を越えた病床数は、緩和ケア病棟、

地域包括ケア病棟、などの開設、改変を経て実働350床となっております。その背景には医療環境の変化の中、地方病院の宿命ともいえるべき医師不足、特に内科の拡充困難が大きく影響し、入院患者数の減少、財務状況の悪化があり、ダウンサイジングを余儀なくされたのが実情です。このような厳しい状況の下で院長職に就き、働き方改革や地域医療構想による病院の再編、統合などの課題も控え多難な前途は自覚していますが、幸い優秀な外科のスタッフに恵まれており、近隣施設に負けない外科領域を病院の顔として前面に打ち出していきたいと思っております。

2019年4月20日付けで国際医療福祉大学熱海病院の院長に就任いたしました。就任にあたり、日頃からご支援を受け賜わりました刀林会の諸先生方、特に国際医療福祉大学副理事長・国際医療福祉大学熱海病院総院長北島政樹先生、慶應義塾大学病院院長北川雄光先生に厚く御礼申し上げます。

国際医療福祉大学熱海病院のルーツは、1911年に創設された東京第一衛成病院熱海分院にあります。東京第一衛成病院とは、東京に多くの陸軍部隊がおかれたことで設置された病院で、1903年に東京衛成病院からの改称により開院しました。東京第一衛成病院熱海分院は、収容患者の湯治療養のための分院として熱海の地に設置されました。1936年2月26日におこった二二六事件では、負傷した決起将校・河野寿大尉が収容され、決起終結後に自決した病院でもあります。その後、臨時東京第一陸軍病院熱海分院、国立東京第一病院熱海分院と何らか名称を変えながら

# 国際医療福祉大学熱海病院 院長就任



池田 佳史 (67回)

1950年に国立東京第一病院(現・国立国際医療センター)から分離独立し国立熱海病院となり、現在の地に移転しました。旧所在地には、現KKRホテル熱海が建てられています。そして2002年に、国立熱海病院から国際医療福祉大学が継承し国際医療福祉大学熱海病院となりました。2005年には、地上8階、地下2階の新病院を開院して予防医学、総合診療、各専門の診療科、救急医療、リハビリテーションなど、時代に即した最先端の医療をご提供できる269床の病院として生まれ変わりました。

熱海市は、日本人で知らない人はいないと言われるほど知名度の高い地域ですが、人口は約37,000人と年々減少し、高齢化率が45%を超える超高齢社会です。一方、小児人口は2,000人を下回り、超少子高齢化が進んでおります。5大がんの検診率は静岡県下で最も低い地域となっており、市民のQOL向上と予防医学分野の充実が重要な課題です。このよ

うな地域において当院は、2016年4月に認定された地域がん診療病院として、また地域の2次救急医療をご提供する救急医療の拠点としても大きな役割を求められています。また、2019年4月には災害拠点病院の指定をうけ、災害時の医療救護活動の拠点としての役割を担うことになりました。

これから当院は、熱海市のみならず静岡県東部、伊豆半島全域、神奈川県西部の医療を支えるがん診療の拠点・地域の2次救急医療をご提供する救急医療の拠点・災害時の医療救護活動の拠点としての役割を担う中核病院として、国際医療福祉大学医学部の教育機関として、初期研修医・後期研修医の育成機関としての役割を、同時に着任した首村智久(72回)先生とともに担ってまいります。刀林会の皆様におかれましては、益々のご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



# 北里大学 一般・小児・肝胆膵外科学教授 就任



隈元 雄介 (69回)

この度、2019年4月1日付で北里大学医学部一般・小児・肝胆膵外科教授を拝命いたしました。身に余るこの大役を仰せつかることができましたのは、温かいご指導を賜りました北里大学名誉教授渡邊昌彦先生、多大なるご支援を賜りました北川雄光教授、これまでご指導いただきました刀林会の諸先輩方のお陰とこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、先月ご逝去されました国際医療福祉大学副理事長、故・北島政樹先生には、臨床と研究の重要性、外科医の心構えなどをご教授していただき、アカデミック外科医としての基礎を形成していただきました。心より感謝申し上げます。心より感謝申し上げます。心より感謝申し上げます。

その後、国立埼玉病院に出向し肝胆膵外科医の研鑽を積み、学位取得後の2000年にドイツ・フンボルト大学へ留学しました。異国の地でゼロから人間関係を築いていく作業を通し、研究者・医師・人間・家庭人として、自分を見直し多くのことを学び成長できた3年間となりました。帰国後は、東京電力病院と平塚市民病院において、臨床のプラクティスを埋めるべく、幅広く外科治療に取り組む、愛情あふれるご指導のお陰で知識・技術ともに熟達することができました。

私は、1990年、慶応義塾大学を卒業しました。自らの力で直接的に患者を治療する外科治療に憧れ、外科学教室に入局しました。尊敬できる先輩と素晴らしい仲間恵まれ、充実した研修期間を過ごす中で、当時外科学の中でも最も未知の領域であった肝胆膵外科に魅了され、この道に飛び込みました。大学では移植班に所属し、慶應初となる小児生体肝移植という正に未知への挑戦を体験しました。それは、診療科の垣根を超え、異なる領域のスペシャリストが結集し、新しい価値を創造するチーム医療の神髄を垣間見る貴重な体験となりました。

肝胆膵外科学は、専門医取得までの道のりが長く、長時間労働が当たり前の領域であり、今の世代が望む職場環境とは真反対に位置しています。そんな中で私の目標は、個人の負担をチーム全体でカバーするチーム医療体制の確立、早期集中暴露による肝胆膵外科医英才教育システムの構築、将来性のある新規医療技術の導入です。外科医減少が叫ばれている昨今、周囲との連携体制を強化し効果的な診療体制を樹立し、高度技能を集中して習得できる環境を整備し、後進を勧誘・育成していくことが、自分にこの立場を与えていただいた諸先生方の期待に応えることだと感じています。若者に魅力ある新しい外科学教室を築いていきたいと考えています。今後とも、刀林会の皆様方のご指導・鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

2010年、渡邊昌彦教授、北川雄光教授のご高配で北里大学肝胆膵外科スタッフとして赴任する幸運を得ました。大病院は多くの症例が集まり、新しいことへ挑戦する環境が整っています。それから9年間、私が刀林会の諸先輩より受け取った愛情を財産とし、志を同じくする北里の仲間たちと肝胆膵外科学に真摯に取り組む、短期・長期成績の向上、低侵襲肝胆膵外科手術の推進を行ってきました。低侵襲手術は、患者の外科治療に対するハードルを低下させることに寄与し、手術件数の急増に繋がっています。昨年は肝切除90件の85%、尾側膵切除25件の90%が腹腔鏡下手術であり、全70件の膵頭十二指腸切除術のうち、低悪性度腫瘍に対しては腹腔鏡手術の導入を開始しました。今年度はロボット支援下手術に取り組み準備を進めています。

肝胆膵外科学は、専門医取得までの道のりが長く、長時間労働が当たり前の領域であり、今の世代が望む職場環境とは真反対に位置しています。そんな中で私の目標は、個人の負担をチーム全体でカバーするチーム医療体制の確立、早期集中暴露による肝胆膵外科医英才教育システムの構築、将来性のある新規医療技術の導入です。外科医減少が叫ばれている昨今、周囲との連携体制を強化し効果的な診療体制を樹立し、高度技能を集中して習得できる環境を整備し、後進を勧誘・育成していくことが、自分にこの立場を与えていただいた諸先生方の期待に応えることだと感じています。若者に魅力ある新しい外科学教室を築いていきたいと考えています。今後とも、刀林会の皆様方のご指導・鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



# 東海大学医学部外科教授就任



山本 聖一郎 (70回)

2019年4月1日付けで東海大学医学部消化器外科教授の職を拝命いたしました。これまでに刀林会の諸先生方より多くのご指導、ご支援を賜りましたことと厚く御礼申し上げます。特に、一般消化器外科教授北川雄光病院長、北里大学北里研究所病院長渡邊昌彦病院長には東海大学教授就任に当たり、多大なるお力添えを頂きました。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。また、迎えていただいた東海大学医学部の皆様にも深く感謝申し上げます。

2019年4月1日付けで東海大学医学部消化器外科教授の職を拝命いたしました。これまでに刀林会の諸先生方より多くのご指導、ご支援を賜りましたことと厚く御礼申し上げます。特に、一般消化器外科教授北川雄光病院長、北里大学北里研究所病院長渡邊昌彦病院長には東海大学教授就任に当たり、多大なるお力添えを頂きました。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。また、迎えていただいた東海大学医学部の皆様にも深く感謝申し上げます。

東海大学医学部は神奈川県伊勢原市に位置し、1974年医学部開設、1975年10月に医学部付属病院が開院し、今に至ります。東海大学消化器外科は上部消化管、下部消化管、肝胆膵の3つのグループに分かれ、各々に担当教授がおり、小澤壯治主任教授(60回)が上部消化管、私は下部消化管を担当いたします。

私は1991年3月に慶應義塾大学医学部を卒業し、慶應義塾大学外科学教室に入局、大病院、関連施設での研修を終えた後、1997年より3年間栃木県立がんセンターで、2000年より1年間慶應義塾大学で外科学を学ばせていただきました。そして、2001年より12年間国立がん研究センター中央病院で大腸外科のスタッフとして勤務し、大腸がんに対する腹腔鏡手術の安全な導入と拡大手術の習得に努め、また Surgical Oncology を学びました。2013年からは平塚市民病院外科、消化器外科に所属し、地域外科医療の質の向上を図るとともに、高齢者などハイリスクな患者に対する外科療法への更なる向上、advanced laparoscopic surgery の導入、化学療法、緩和ケアを含めた人を診る oncology の探求、緊急手術への腹腔鏡手術の導入などを実践して参りました。

今後は、東海大学では、大腸癌の外科治療では低侵襲な腹腔鏡手術の適応を拡大していきます。また、局所再発癌や高度進行肉腫などに対する多臓器合併切除を伴う拡大手術を継承、発展させていきます。そして、高齢者に対する適切な治療、特に有害事象と効果バランスを考慮した化学療法

すべての革新は患者さんのために

中外製薬 CHUGAI A member of the Roche group

at the Front Line CHUGAI ONCOLOGY

AVASTIN bevacizumab

日本標準品分類番号 874291

抗悪性腫瘍剤 抗VEGF<sup>(注1)</sup> ヒト化モノクローナル抗体 生物由来製品、製薬、処方箋医薬品<sup>(注2)</sup>

薬価基準記載

100mg/4mL 点滴静注用

400mg/16mL

ベ(バ)シズマブ(遺伝子組換え)注

注1) VEGF: Vascular Endothelial Growth Factor(血管内皮増殖因子)  
注2) 注意-医師等の処方箋により使用すること

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等は製品添付文書をご参照ください。

ホームページで中外製薬の企業・製品情報をご覧ください。 https://www.chugai-pharm.co.jp/ 2017年10月作成

製造販売元 中外製薬株式会社 〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

# 埼玉医科大学総合医療センター 緩和医療科・呼吸器外科 教授就任



儀賀 理暁 (72回)

平成から令和へと時代が  
移り変わるその日に辞令を  
拝受いたしました。呼吸器  
外科(72回)の儀賀と申し  
ます。本辞令をもちまして、  
緩和医療科が主たる業務、  
呼吸器外科は兼任となりま  
した。従いまして、『刀林』  
の貴重な紙面での挨拶は心  
苦しいところではございま  
すが、大変お世話になって  
おります諸先生方へのお礼  
を兼ねての報告とさせてい  
ただければ幸いです。

年で、鏡視下手術と(当時  
の)新規抗がん剤に引き続  
いて登場した分子標的薬が  
普及し、がん治療の風景が  
変わり始めた「時代」であっ  
たということを実感しま  
す。四半世紀と少しの時が  
流れた今、ロボット手術、  
次々と登場する分子標的薬  
や免疫チェックポイント阻  
害剤、再生医療、ゲノム医  
療・・・と、医療(社会)  
情勢はさらに目まぐるしく  
変化しています。さらに、  
人工知能の爆発的な進化に  
より、医師が知識や経験の  
みでその存在に価値を見出  
して頂ける日々には限りが



見えてきていると言っても  
過言ではないでしょう。検  
査データや画像所見を世界  
中の情報に照らし合わせ、  
適切な診断と治療方法を導  
き出すという土俵におい  
て、生身の医師が人工知能  
に勝つすべはありません。  
モニタリング技術がもう少  
し向上すれば、技術面で外  
科医の立場が危ぶまれる日  
が来うるというのもあなが  
ち妄想ではありません。  
そう考えた時、改めて「医  
師の役割とはなにか」とい  
う根源的な命題が私の前に  
立ちのびてきます。それは、  
臓器でも疾患でもなく、「あ  
なた」の専門家であること  
かも知れません。  
先の見えない厳しい時代  
ではございますが、諸先輩  
方にご教授頂いた多くの宝  
物を糧に、今とこれからを  
生きる皆さまのお役に立て  
るよう努めて参りたいと思  
います。引き続きご指導ご  
鞭撻のほど、よろしくお願  
い申し上げます。

# 埼玉医科大学国際医療センター 乳腺外科教授就任



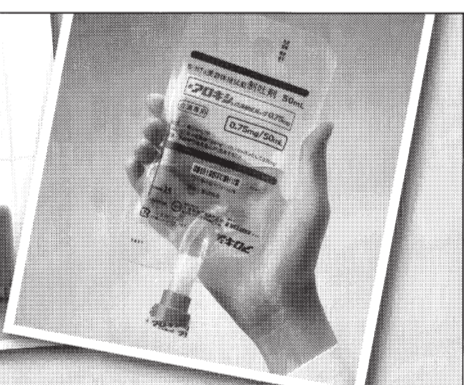
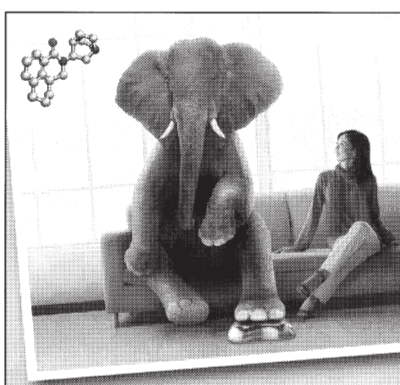
北條 隆 (73回相当)

令和元年5月1日付で埼  
玉医科大学国際医療セン  
ター乳腺腫瘍科教授に就任  
いたしました。長きにわた  
りご指導を賜りました慶應  
義塾大学医学部外科学教室  
一般・消化器外科教授 北  
川雄光先生、同名誉教授  
北島政樹先生に厚く御礼申  
上げます。また今まで多  
大なるご支援を賜りました  
慶應義塾大学外科学教室一  
般・消化器外科の諸先輩方、  
同僚・後輩に心より感謝申  
上げます。

私は1994年に聖マリ  
アナ医科大学を卒業後、  
外科学教室一般・消化器外  
科に入学、慶應大学病院、  
大和市立病院、川崎市立川  
崎病院などで研修を積みま  
した。1997年に榎本耕  
治先生、池田正先生の乳腺  
班に入り乳腺臨床における  
手術指導、診療指導、研究  
指導をご教授いただきました。  
1999年には国立がん研  
究センター(現国立がん研  
究センター) 研究所細胞増  
殖因子研究部に国内留学さ

せていただき、がん抑制因  
子の研究や樹状細胞を用い  
たがん免疫治療の研究など  
先端の研究を学ばせていた  
だきました。2006年から  
は国立がんセンター中央  
病院で乳癌に対する診療を  
行い、研究面では多施設共  
同試験を行い、2016年  
には国立がん研究センター  
東病院乳腺外科科長を拝命  
し、多くの乳癌患者への治  
療を行うとともにレディイ  
スセンターの開設及び機器  
開発にも携わって参りまし  
た。

埼玉医科大学国際医療セ  
ンターは埼玉西部地区の地  
域医療の最後の砦として機  
能しつつ、世界最高水準の  
がん・心臓病に対する高度  
専門医療及び高度の救命医  
療の提供を目指した病院  
で、乳癌に対して年間約  
500件の手術を行っている  
ハイボリュームセンター  
です。そのような中で、私  
が慶應義塾大学外科学教室  
乳腺班で教わり、培った高  
い専門性と温かいホスピタ



「効能・効果」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量」、「用法・用量に  
関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

5-HT<sub>3</sub> 受容体拮抗製吐剤 劇薬、処方薬医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること) 薬価標準収載

**アロキシ** 静注 0.75mg Aloxi. I.V. injection 0.75mg  
**アロキシ** 点滴静注用バッグ 0.75mg Aloxi. I.V. infusion bag 0.75mg

パロノセトロン塩酸塩注射剤 販売元 大鵬薬品工業株式会社  
 資料請求先 株式会社 大鵬薬品工業株式会社  
 (医薬品情報) TEL.0120-20-4527 FAX.03-3293-2451  
 http://www.taiho.co.jp/ 提携先 HELSINN スイス

2016年9月作成

漢方医学と西洋医学の融合により  
世界で類のない最高の医療提供に貢献します

自然と健康を科学する  
漢方の **ツムラ**

https://www.tsumura.co.jp/  
 ●お問い合わせは、お客様相談窓口まで。  
 【医療関係者の皆様】Tel.0120-329-970 【患者様・一般のお客様】Tel.0120-329-930

# 東海大学医学部小児外科学 教授就任



渡辺 稔彦 (75回)

このたび、いつも温かく小児外科を見守って下さった北島政樹先生の突然の悲報に接し、誠に痛恨の極みに存じます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

2019年4月より、東海大学医学部外科学系小児外科学教授を拝命いたしました。2019年は私の干支「亥年」で私の人生も早くも5巡目に入り、また新元号とともに清々しい気持ちで新たなキャリアをスタートすることができました。刀林会の多くの先輩方の格別のご指導とご厚情の賜物と心より御礼申し上げます。

私(慶應義塾大学外科学教室)は慶應義塾大学外科学教室に入局し、大学での研修後、芳賀赤十字病院、立川共済病院にて成人外科手術の基本をご指導頂きました。森川康英教授(当時)のもと小児外科医としての研修を始め、研究はラット小腸移植モデルをご指導頂き、小動物の顕微鏡下の精緻な縫合技術が身につきました。さいたま市立病院では、遠藤昌夫院長(当時)のもと内視鏡手術を中心と

した一般小児外科を学びました。ポストン小児病院へ留学の機会を頂き、顕微鏡下手術の技術を生かしマウス心移植モデルを用いた移植免疫の研究に携わりました。国立成育医療研究センター赴任時は、黒田達夫院長(当時)のもと多くのメジャー小児外科手術を教わり、小児外科指導医となることができました。東海大学医学部では上野滋教授(当時)が育まれた地域に密着した小児外科医療を引き継がせて頂きました。このように私はこれまで、大

例検討を行う「顔の見える」小児外科の地域連携を通じて、地域の小児医療全体のさらなる円滑な連携と活性化を図りたいと考えています。診療面ではこれまで力を入れてきました小児内視鏡外科手術をさらに推進し小児外科チーム力の向上に努めて参ります。研究面では高難度な小動物モデルによる「外科医にしかできない」基礎研究を継続していきます。小児外科栄養代謝の分野でも、ω3系脂肪酸剤のこれまでの臨床・基礎研究を本剤の薬事承認に繋げられるよう尽力していきます。ベトナムはハノイの小児外科グループと技術や知識、人材についてお互いの弱点を補完できるような国際的な医療連携を継続し、技術や人材を患者様に集約して参ります。

日本はこれから未曾有の超少子高齢化時代に入るとされ、様々な困難が予測されますが、日本の将来を担う一人一人のこどもの健全な成長がこれまで以上に重要となってきます。まずは神奈川県西部の基盤をより強固にすべく、紹介先の施設を訪問して患者様の症

# 藤田医科大学総合消化器外科学 教授就任



須田 康一 (79回)

本年4月1日付けにて藤田医科大学総合消化器外科学臨床教授を拝命致しました。これも北川雄光教授、北島政樹名誉教授をはじめ

め、皆様のご指導・ご支援の賜物と心より御礼申し上げます。私は、2000年に慶應義塾大学医学部を卒業し、外科学教室に入局し

ました。2003年より一般・消化器外科上部消化器班(旧食道班)に所属し、「侵襲に対する生体反応の予測と制御」を課題として

学位研究を行い、2008年から2年間、University of British Columbia (Vancouver, Canada)に留学しました。2010年、宇山一朗教授率いる藤田保健衛生大学上部消化管外科学(現藤田医科大学総合消化器外科学)に赴任し、低侵襲手術の修練を積みながら「da Vinci 軸理論」に基づく最適かつ普遍的なロボットセッタップ方法(Surg Endosc 2015;29:673-685)を考案し、ロボット支援下内視鏡手術の普及と発展に貢献しました。

2016年から慶應義塾大学医学部腫瘍センターに所属し、胃癌・食道癌に対するロボット支援下内視鏡手術を導入した後、2018年7月から再度、藤田医科大学総合消化器外科学に勤務しています。上部消化管外科領域の診療は勿論のこと、先進医療B「内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術」の事務局運営や、サージカルトレーニングセンターならびに先端外科治療開発共同研究講座の開設・運営等を介して先端外科治療の開発やその安全な普及に貢献すべく鋭意取り組んでいます。まだまだ若輩者ではありますが、皆様の支えを受けながら日々精進して参る所存です。今後ともご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

# 東海大学医学部小児外科学 教授退任



東海大学 名誉教授  
上野 滋 (57回)

刀林会会員の皆様におかれましては、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。私ごと、この度、平成三十一年三月三十一日をもって、東海大学教授を退任いたしました。編集委員会のご厚意により、刀林紙面を通じて、ご挨拶させていただきますことをたいへん光栄に存じ

ます。平成四年一月、当時の北島政樹慶應義塾大学教授と三富利夫東海大学教授のご高配により、神奈川県伊勢原の地にあります大学に赴任、横山清七前教授ご指導のもとで忙しくも充実した日々を過ごし、平成

多数いらっしゃる中で、東海大学や他大学出身の皆様ともいっしょに働かせていただき、ひと言でいえば、東海、慶應、和気あいあいとした中で過ごした平成の二十七年間であったと感じております。

この間、診療に追われる中で学会活動や医学教育活動にも従事させていただきました。末筆となりましたが、慶應義塾の校風と伝統の担い手である刀林会が、今後ますます発展し、国内外で会員ならびに母校を支える存在であり続けることを願って、ご挨拶の結びとさせていただきます。

またが、その力の源となつたのは、母校を卒業してから赴任するまでの間、すなわち、慶應義塾大学病院、平塚市民病院、浦和市立病院、東京都立清瀬小児病院の各病院在職中、あるいは米国マサチューセッツ総合病院への留学を通して、刀林会の諸先輩のご指導により培ったものであったと感じております。とりわけ、小児外科グループの先達、同僚、後輩の皆さまには、診療や研究面で真摯な議論を交わし、切磋琢磨しながら、卒業以来変わることなく、暖かくご指導、ご支援いただきました。母校卒業時に小児外科の門をたたいてよかったと躊躇なく申し上げることができ大きな理由であります。縁あって、第四九回日本小児外科学会学術集会(平成二四年)および第二四回日本小児救急医学会学術集会

# 東海大学消化器外科教授 退任



貞廣 莊太郎 (57回)

2019年3月で25年間在籍した東海大学消化器外科を定年退職しました。私は1978年3月に慶應義塾大学を卒業し、阿部令彦教授が主宰されていた外科学教室に入局し、消化器外科医としてのスタートを切りました。出張先の足利赤十字病院では植松義和先生に生真面目に臨床に取り組む姿勢を、国立大蔵病院では宇都宮利善先生に大腸癌の発癌実験を通じて大腸癌への興味を誘発していただき、仕事を論文にまとめることの大切さを教えていただきました。

1997年に大学へ帰ってからは小平進先生の大腸班に所属し、高見博先生には学位論文を作る過程で研究への取り組み方を教えていただきました。1985年に川崎市立井田病院へ出張し9年間お世話になりました。井田病院での毎日は充実しておりましたが、もっと患者数の多い施設で専門の知識や技量を活かしたいと考えていたところ、東海大学第二外科の三富利夫教授、田島知郎教授、野登隆講師に誘っていただき、第二外科に講師で加えていただきました。以後25年間活動の場を与えていただいたこと心から感謝しております。

この25年間、東海大学の研究の方向性を含めて私がすべてを決めてきました。はじめは大腸担当のmemberは私1人だったのですが、徐々に仲間も増えて医局内で最も大きなグループになりました。学外へ向かっての活動の大きな目標は2つ、①治療切除が可能なであった結腸癌の生存率を改善するために転移再発形式に基づく補助化学療法を世界に発信すること、②つめは国際的な標準治療である直腸癌への化学放射線療法のJedietzを日本の多くの先生方に知っていただくことでした。ここ数年は、がん診療拠点病院を中心に年間約20施設の先生方に講演を通じて直接お話しする機会に恵まれ、また東海大学は大腸癌への集学的治療のトップランナーとして高い評価を受けています。

退任に当たって私の感じたclinical questionsとそれを解決するために行った臨床研究の記録を論文集としてまとめました。私がsecond authorである論文230のうち、特に思い入れの強い88編をまとめて記念誌にしました。交流のあった先生方にお届けしたところ多くの暖かいお手紙をいただき、自分が外科医として歩んできた道に自信を持つことができました。

退任後は東海大学と同じ医療圏内の病院に4日間消化器外科医として勤め、また以前から医療の手薄な地域で役立ちたいという希望があり、院長先生が私の患者さんだったという縁があつて宮城県石巻近郊にあるクリニックで1日 肛門、便秘外来をしています。今後は専門の知識や技量は活かしたいとは思いますが、市井の臨床医として社会に少しでも役立ちたいと思っております。狭い業界でするので今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

# 北里大学外科の明るく未来に向けて 教授退任



学校法人北里研究所  
北里大学北里研究所病院 病院長  
渡邊 昌彦 (58回)

平成16年に北里大学外科三代目の主任教授に就任以来、外科を主宰してまいりました。北里大学外科は比企能樹先生(37回)をはじめ、故菊池順一郎先生(27回)や故大場正己先生(38回)ら刀林会員の先生方の御尽力もあり、私の赴任時は既に全国有数の症例数を誇る大外科に発展していました。外科は慶大外科にない消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科、末梢血管外科、小児外科を有する、ベッド数150床を超える大所帯でした。しかし、赴任当初、慶大外科と比較して術後の入院期間が長く、内視鏡外科の割合も低いことを知り、そこで手術の定型化によって手術時間を短縮し、手術室を効率的に運用して手術件数の増加と合併症率の低下を実現しました。さらにクリニカ

各々の診療、研究、教育面で独立性を保持できるように配慮しました。一方、回診と称して毎週一人の患者さんを例にとり、診断から治療、将来の生活についてレジデントとじっくりと話し合う機会を設けました。その会話を通じて彼らの考えを知ることが何よりの楽しみでした。

新入教室員の教育においては、学内で外科全域をローテーションした後に教育関連病院で2-3年研修し、そして大学で2年チーフレジデントという慶大外科方式を取り入れました。北川雄光教授のご厚誼のもと、刀林会のハイポリウムセンターに卒業教育を願いました。卒業後、先生方は全国に類をみない早さで手術技術を習得し、外科専門医を取得できるようにになりました。専門医取得後に大学院に進学した院生には病棟フリーで研究に専念するようにしました。その結果、彼らの論文が次々一流英文誌に掲載されたのは当の私が驚いてしまいました。関連病院での教育を通じて、文武両道の素晴らしい外科医たちを育てて下さった刀林会員の先生方に、誌面をお借りして御礼申し上げます。

まだないくすりを  
創るしごと。

明日は変えられる。  
astellas  
アステラス製薬  
www.astellas.com/jp/

血液凝固阻止剤  
**アコアラン®** 600 静注用1800  
600国際単位、1800国際単位 / バイアル  
ACOALAN Injection アンチトロンピン ガンマ(遺伝子組換え)静注用

生物由来製品 処方箋医薬品 薬価標準収載  
(注意:医師等の処方箋により使用すること)

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元  
協和発酵キリン株式会社  
東京都千代田区大手町1-6-1

販売元  
一般社団法人  
**JB** 日本血液製剤機構  
東京都港区浜松町2-4-1

2019年4月作成

[資料請求先]  
日本血液製剤機構 くすり相談室 〒105-6107 東京都港区浜松町2-4-1 医療関係者向け製品情報サイト <https://www.jbpo.or.jp/med/di/>

# 藤田保健衛生大学 下部消化管外科主任教授退任・ 藤田医科大学国際医療センター センター長・教授就任



前田 耕太郎 (58回)

2017年3月をもちまして藤田保健衛生大学下部消化管外科主任教授を退職いたしました。在任中には、刀林会の先生方には多くのご支援、ご協力を頂きまして深く感謝申し上げます。在任中には、本邦の大学外科学に関連する全ての学

会、研究会を主宰させていただきました。これは刀林会の先輩方が築いてこられた基盤とご指導があつてからのことと認識しております。同門の先生方のご指導、ご協力、ご支援に感謝申し上げます。本大学は、2018年10月に藤田保健

衛生大学から藤田医科大学に名称を改めました。2016年から併任として国際医療センターの仕事も細々と行っておりまして、2018年1月に写真の国際医療センターの施設が開院してからは、こちらの建物でセンター長として仕事を継続し

ています。現在、外科医としては外来週1回と機能性疾患を中心とした手術のお手伝い、センターでの関連疾患の診察をおこなっています。国際医療センターでは、インバウンドの患者さんの健診および診察を行っております。2018年度には383人の患者さんで国際医療センターで診察しており、毎年来院数は増加しています。医療センターを通して入院、手術を行う患者さんの数も増加しつつあります。またセンターでは Fujita Executive Club (FEC) も併設し、メンバーの患者さんの健診と健康管理も行っています。

下部外科教授退任後は、癌関連の手術は後任に任せ、最近では機能性大腸疾患の診療やガイドライン関連の仕事を中心に行っています。幸か不幸か、国際的な仕事は継続しており、現在 International College of Surgeons (ICS) の 16 Vicepresident、日本部会長、2020年に総会会長を担当する International Society of University of Colon Rectal Surgeons (ISUCRS) の Vicepresident、Asian Society of Stoma Rehabilitation (ASSR) の理事、Asian Pacific Federation of Coloproctology (APFCP) の事務局長などを担当しています。

国際医療センターに来院する患者さんの多くが中国の方ですので、退官したら勉強しようと思っていたフランス語の代わりに中国語を習っています。現在ピツカピカの小学2年生です。発音が大変ですが、苦勞しながら楽しんでいきます。これからも刀林会の先生方にはお世話になることが多いと思いますが、よろしくご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

新病院棟建設企画担当として慶應義塾を退任するにあたりご挨拶申し上げます。1997年に呼吸器外科に帰室して以来臨床中心の活動をしていたところ、新病院棟建設プロジェクトが動き始めるという機会に接し、2010年より医師の立場からこのプロジェクトを取りまとめる仕事に携わらせていただきました。医学部100周年記念事業の一環として、刀林会の先生方、三四会、塾員の皆さんから多大なるご支援をいただき、2018年春に新病院棟(1号館)を無事にオープンすることができました。病院としての最終形ができるにはまだしばらくの日時を要しますが、医療サイドとしての病院建築はほぼ完了し、この機会に退任することとなりました。

この間には清家、長谷山両塾長以下義塾三田本部の方々のご指導を仰ぎながら、医学部・病院執行部の諸先生と一体になって事業を進めてきました。プロジェクト担当者としては基本構想・基本計画の策定、設計・施工管理、病院移転実行などに加えて、医学部病院の最前線で日々働く皆さんとこの一大プロジェクトを管理する慶應義塾本部との間を繋ぐことに注力してきました。記憶に残る一番の思い出は昨年5月4日に800床からなる新病院棟への患者さんの移送が無事に終了し、北川病院長が院内放送で移転完了を宣言して関係者が安堵した時のことです。実際に新病院が動きだし、外来診察室で患者さんから新病院棟について温かい言葉をかけていただく事がありますが、これほど嬉しいことはありません。

また在任期間中には義塾体育会アメリカンフットボール部長を拝命し、250名からなる現役部員諸君の後ろ盾となって強豪校と試合をする機会にも恵まれました。特に毎年の早慶戦では試合前の控室で部員を鼓舞するスピーチを行ってきたのがとても良い思い出です。在任中は慶應医学100年の節目の事業に携わることができました。幸いにも米寿の父真幸(34回外科)も現役なので、今後は渡辺医院の開業医として親子ともども活動していく予定です。刀林会の先生方には益々のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



藤田医科大学病院 国際医療センター入口

藤田医科大学に名称を改めた。2016年から併任として国際医療センターの仕事も細々と行っておりまして、2018年1月に写真の国際医療センターの施設が開院してからは、こちらの建物でセンター長として仕事を継続し

ています。現在、外科医としては外来週1回と機能性疾患を中心とした手術のお手伝い、センターでの関連疾患の診察をおこなっています。国際医療センターでは、インバウンドの患者さんの健診および診察を行っております。2018年度には383人の患者さんで国際医療センターで診察しており、毎年来院数は増加しています。医療センターを通して入院、手術を行う患者さんの数も増加しつつあります。またセンターでは Fujita Executive Club (FEC) も併設し、メンバーの患者さんの健診と健康管理も行っています。

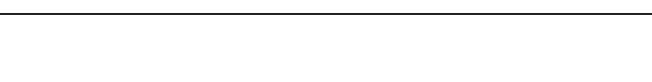
下部外科教授退任後は、癌関連の手術は後任に任せ、最近では機能性大腸疾患の診療やガイドライン関連の仕事を中心に行っています。幸か不幸か、国際的な仕事は継続しており、現在 International College of Surgeons (ICS) の 16 Vicepresident、日本部会長、2020年に総会会長を担当する International Society of University of Colon Rectal Surgeons (ISUCRS) の Vicepresident、Asian Society of Stoma Rehabilitation (ASSR) の理事、Asian Pacific Federation of Coloproctology (APFCP) の事務局長などを担当しています。

国際医療センターに来院する患者さんの多くが中国の方ですので、退官したら勉強しようと思っていたフランス語の代わりに中国語を習っています。現在ピツカピカの小学2年生です。発音が大変ですが、苦勞しながら楽しんでいきます。これからも刀林会の先生方にはお世話になることが多いと思いますが、よろしくご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

新病院棟建設企画担当として慶應義塾を退任するにあたりご挨拶申し上げます。1997年に呼吸器外科に帰室して以来臨床中心の活動をしていたところ、新病院棟建設プロジェクトが動き始めるという機会に接し、2010年より医師の立場からこのプロジェクトを取りまとめる仕事に携わらせていただきました。医学部100周年記念事業の一環として、刀林会の先生方、三四会、塾員の皆さんから多大なるご支援をいただき、2018年春に新病院棟(1号館)を無事にオープンすることができました。病院としての最終形ができるにはまだしばらくの日時を要しますが、医療サイドとしての病院建築はほぼ完了し、この機会に退任することとなりました。

この間には清家、長谷山両塾長以下義塾三田本部の方々のご指導を仰ぎながら、医学部・病院執行部の諸先生と一体になって事業を進めてきました。プロジェクト担当者としては基本構想・基本計画の策定、設計・施工管理、病院移転実行などに加えて、医学部病院の最前線で日々働く皆さんとこの一大プロジェクトを管理する慶應義塾本部との間を繋ぐことに注力してきました。記憶に残る一番の思い出は昨年5月4日に800床からなる新病院棟への患者さんの移送が無事に終了し、北川病院長が院内放送で移転完了を宣言して関係者が安堵した時のことです。実際に新病院が動きだし、外来診察室で患者さんから新病院棟について温かい言葉をかけていただく事がありますが、これほど嬉しいことはありません。

また在任期間中には義塾体育会アメリカンフットボール部長を拝命し、250名からなる現役部員諸君の後ろ盾となって強豪校と試合をする機会にも恵まれました。特に毎年の早慶戦では試合前の控室で部員を鼓舞するスピーチを行ってきたのがとても良い思い出です。在任中は慶應医学100年の節目の事業に携わることができました。幸いにも米寿の父真幸(34回外科)も現役なので、今後は渡辺医院の開業医として親子ともども活動していく予定です。刀林会の先生方には益々のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



## 退任に際して御挨拶と御礼



新病院棟建設企画担当教授  
渡辺 真純 (64回)

ボール部長を拝命し、250名からなる現役部員諸君の後ろ盾となって強豪校と試合をする機会にも恵まれました。特に毎年の早慶戦では試合前の控室で部員を鼓舞するスピーチを行ってきたのがとても良い思い出です。在任中は慶應医学100

年の節目の事業に携わることができました。幸いにも米寿の父真幸(34回外科)も現役なので、今後は渡辺医院の開業医として親子ともども活動していく予定です。刀林会の先生方には益々のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

# 第119回日本外科学会定期学術集会 優秀演題を受賞

## 「脱細胞化技術を用いた 僧帽弁位人工弁の開発」



慶應義塾大学医学部  
外科(心臓血管)  
稲葉 佑(90回相当)

この度は「刀林」第113号に寄稿させて頂く貴重な機会を賜り誠にありがとうございます。今回4月20日に大阪国際会議場で開催されました第119回日本外科学会定期学術集会におきまして、報告いたしました表題の研究課題が優秀演題賞に選出されましたことをご報告申し上げます。本研究は、一般・消化器外科の八木洋先生(77回)、北川雄光教授(65回)のご指導のもと平成29年か

ら31年まで実施させていたいただきました。この場をお借りして御礼を申し上げます。また日頃よりご指導頂いております志水秀行教授に心より感謝申し上げます。心臓血管外科領域において、心臓弁膜症、特に僧帽弁手術数は年々増加の一途をたどっています。多くの症例で、自己弁及び弁下組織が温存される僧帽弁形成術が行われていますが、解剖学的理由により形成が困

難な症例に対しては弁置換術が選択されます。しかしながら現行の弁置換術では、僧帽弁複合体(左室、乳頭筋、腱索、弁尖、弁輪)の連続性、形態の維持が困難であるために、術後の心機能低下の懸念がございます。したがって僧帽弁複合体に近い形態を持つ生体由来の人工弁が望まれておりますが、未だに開発されておられません。そこで、今回我々は臓器再生医療分野で注目されている脱細胞化技術を応用したユニークな手法を用い、僧帽弁複合体の形態を保つ、生体由来の全く新しい僧帽弁グラフトの開発を目標といたしました。本研究では一般・消化器外科再生医療班で行われている臓器脱細胞化技術

を心臓へ応用して、独自の脱細胞化僧帽弁複合体の作製に成功し、これを人工心肺下に大動物に移植いたしました。その結果、移植後も脱細胞化僧帽弁複合体が機能を果たし、術後2



週間では内皮細胞などの構成細胞が骨格表面・内部に生着する現象を認めました。本複合体は解剖学的な立体構造が維持されており、将来的には体内での自己組織化可能な僧帽弁グラフトの開発へ繋がるものと考えています。一方で大動物実験に際し、人工心肺機器を含めた実験の準備・手術方法など、さまざまな課題・トラブルにも直面することとなり、日頃いかに自分が恵まれた環境で安全に手術しているかを痛感いたしました。本研究での経験や知見を糧に、これからも今後の外科学ならびに心臓血管外科学の発展に繋がるような臨床・研究に携わることができるよう精進して参ります。

# 第73回手術手技研究会を開催して



上尾中央総合病院外科  
若林 剛(61回)

去る2019年5月24日(金)と25日(土)の2日間、第73回手術手技研究会当番世話人を拝命し、東京都千代田区の一橋講堂で第73

回研究会を開催させていただきました。本研究会の顧問でもありました北島政樹先生の急逝の直後であり、開会前には大きな不安もありましたが結果として380名を超える参加者を得て無事に会を終えたことをご報告いたします。歴史と伝統のある本手術手技研究会は、外科の先輩が手術手技に特化した熱い議論を交わす場であり、そして、外科を修練する若手が自らの目標となる手技を学ぶ場であると自分なりに理解しております。そこで



手技研究会を企画するにあたり、先達には確立した良い手技を供覧しつつ、あわせて自らの経験を語っていただき、若い外科修練医にはそこから到達すべき確かな技術を学んでいただくため、メインテーマを「奥義の伝承・良い手技は確かな技術から」といたしました。また、二つの主題は「外科解剖を再考する」と「手術を科学する」といたしました。主題1と2では、各領域のエキスパートによる素晴らしいご講演をいただき、当番世話人自らが最も勉強し楽しませてもらいました。また、新たな試みとして、本研究会テーマの「奥義の伝承」をもとに、指導者の立場での紹介と Rising star の演者による講演の Rising star session、若手の先生向けの Video clinic、Video clinic のコメントコーナーによる Expert video セッション、そして、ロボット支援手術の保険収載

に合わせたセッションとして、保険収載された各領域において、ロボット支援手術エキスパートと新規導入された先生方それぞれからご講演頂く当番世話人特別企画を設けました。特にこのセッションではわが国に初めてダビンチを導入した北島政樹先生に特別発言をいただく予定となっており、司会の宇山一朗君(64回)と私でロボット手術への故人の想いを頭に描きながらセッションを締めさせていただきます。第73回手術手技研究会が実り多い会になりましたことをご報告し、ご参加いただき素晴らしいご発表をしてくださった多くの刀林会の皆様に感謝申し上げます。また、本研究会の成功を喜んでくださっているはずの北島政樹先生に、心から哀悼の意を表したいと思います。



# 第48回日本創傷治療学会を終えて



帝京大学医学部附属溝口病院  
外科・緩和ケアセンター 教授

宮澤 光男 (64回相当)

第48回日本創傷治療学会を平成30年11月29日から30日までの2日間、イイノホール&カンファレンスセンター(東京、霞が関)で開催させていただきました。

本学会は、現在、議論の中心が体表の創傷治療に偏りがちで、消化器外科医である私主催で応募演題数、参加者数を心配しておりましたが、発表演題数149題、450余名の参加者を集め、外科医が会長を務めた本学術集会においては過去最高となり、盛会裏に学会を終えることができました。

本学会は、慶應義塾大学の外科、耳鼻科が中心となり、「日本創傷治療研究会」として発した学会です。1972年に第1回の学術集会が開催され、刀林会からは、阿部令彦先生が第4回から第7回まで連続して、掛川暉夫先生が第19回を、石引久彌先生が第29回を主催され、この度第48回を私が担当させていただきました。慶應義塾大学外科

学教室の伝統と実績の賜物と深く感謝いたしております。

今回の学術集会では、「創傷治療学と他分野とのフュージョン」をメインテーマに掲げ、目まぐるしく変化している創傷治療学と他の多くの分野がどのように融合し、発展してきたかを総括し、近未来の「創傷治療学」の方向性を築くことを目的としました。サブテーマとして「吻合部の創傷治療」「瘢痕のない傷を指して」とし、体表、腹腔内、胸腔内、頭頸部における傷、吻合部において、

近年の創傷治療学はどのように変化しているかを、基礎的解析、創傷のケアも含め、医師、看護師、基礎系研究者の皆様に包括的に討論していただきました。特別企画として、国境なき医師団海外派遣スタッフ看護師の白川優子様から「紛争地で医療活動をするという事」、特別講演として、帝京大学医学部名誉教授の大村昭人先生から「医

療立国と企業家としての国家・医療制度の崩壊を防ぐために」、藤田医科大学総合消化器外科の宇山一朗先生から「内視鏡手術における漏れない、狭窄しない吻合法の工夫と変遷」、教育講演として、沖縄科学技術大学院大学膜生物学ユニットの河野恵子先生から「創傷治療の分子機構とその帰結―細胞から組織まで」、岩手県立大学看護学部の武田利明先生から「薬液の血管外漏出性皮膚傷害の基礎研究」の講演をいただきました。

どの先生方も各分野におけるトップランナーであり、各分野の最近の知見を含め興味深く講演していただき、参加された看護師、医師、基礎研究者の皆様にとっては意義のある講演になったと信じております。末筆とはなりませんが、今回の学術集会の開催にあたり、刀林会の皆様には、多くのご指導、ご協力、ご寄付を賜り、この場を借りて心より御礼申し上げます。

療立国と企業家としての国家・医療制度の崩壊を防ぐために」、藤田医科大学総合消化器外科の宇山一朗先生から「内視鏡手術における漏れない、狭窄しない吻合法の工夫と変遷」、教育講演として、沖縄科学技術大学院大学膜生物学ユニットの河野恵子先生から「創傷治療の分子機構とその帰結―細胞から組織まで」、岩手県立大学看護学部の武田利明先生から「薬液の血管外漏出性皮膚傷害の基礎研究」の講演をいただきました。

## 第48回日本創傷治療学会収支報告書

帝京大学医学部附属溝口病院  
外科・緩和ケアセンター 教授

宮澤 光男 (64回相当)

### 収入の部

| 項目     | 金額(円)      |
|--------|------------|
| 参加費    | 4,143,000  |
| 抄録集販売費 | 264,000    |
| 共催費    | 4,400,000  |
| 企業展示費  | 3,650,000  |
| 広告掲載費  | 1,809,000  |
| 学会補助金  | 1,000,000  |
| 寄付金    | 820,000    |
| 雑収入    | 50         |
| 収入合計   | 16,086,050 |

### 支出の部

| 項目         | 金額(円)      |
|------------|------------|
| 会場費        | 4,833,759  |
| 付帯設備費      | 3,676,470  |
| 印刷費        | 2,081,802  |
| 通信費        | 212,101    |
| 備品・消耗品費    | 527,766    |
| 諸謝金        | 693,675    |
| 関連行事開催費    | 1,804,529  |
| 事務局費       | 277,500    |
| 業務委託費      | 1,877,800  |
| その他(学会返還金) | 100,648    |
| 支出合計       | 16,086,050 |



留学報告



木下 智成 (86回)

この度は外科同窓会新聞「刀林」に留学報告をさせていただくことができ光栄に思います。私は2016年10月より慶應義塾大学病院呼吸器外科からカナダ、トロント大学胸部外科に2年9か月間留学をいたしました。最初の1年9か月はリサーチフェローとして、残りの1年はクリニカルフェローとして勤務いたしました。リサーチフェローの期間は上司である安福和弘先生のご専門でもある、末梢肺癌への内視鏡的アプローチ兼治療の開発に携わり、その成果をCHESTなどの雑誌に掲載することができました。一方、臨床では日本とは異なる術式も含めた貴重な手術症例を多く経験できました。また慶應皮膚科学教室に属する妻もトロント大学皮膚科で2年間、クリニカルフェローとして臨床・研究に携わることで、夫婦ともに医師・研究者として似た環境に身を置くことで互いに励まし、刺激しあいながら留学生活を送ることができました。

穫は英語でのコミュニケーション能力の向上に加え、多くの有名な先生方、友人達に出会えたことです。語学に関しては、留学前に十分な準備期間が取れず、不安なまま海を越えたことを覚えています。現地の語学学校や自宅学習で基本を学び直し、オンラインレッスンで英会話の練習を毎朝こなすことで次第に語学力は向上しましたが、何より一番の支えになったのはトロントの人々の温かさでした。トロントは多くの人種・民族からなる都市で、様々なバックグラウンドを持つ人々がお互いに母国語ではない英語でコミュニケーションしながら生活しています。そういった意味で英語が完璧でない人にも寛容な場所と言えます。一度も海外居住を経験したことがなかった我々にとっては、下手な英語で話しても辛抱強く聞いてもらえるというところは有難かったです。そして、トロント大学胸部外科の名高い先生方との手術を通して現地の胸部外科を肌で学ぶことができたのももちろんのこと、同時に留学していた世界各国の外科医たちと国や言語の隔たりなく交流できたことはかけがえない思い出です。トロント胸部外科では日本人医師の留学生も多く、大学の垣根を超えた出会いがトロントでできたことは不思議な感覚でもありません。慣れない環境で数々の困難や喜びを共にすることで彼らとの絆は深いものとなり、日本帰国後も気軽に相談し、支え合うことができる

一生の友を得ることができました。一方で留学中は私が不在であるがゆえに医局の先生方に多くのご迷惑をおかけしました。令和元年7月より慶應義塾大学病院で呼吸器外科医として再度働く機会をいただきました。臨床に携わっていたとはいえ、日本の医療から離れていたことで取り残されている部分もあるかと思えます。早く皆さんに追いつき、留学で得たことを活かしつつ臨床・研究・教育の場に貢献できるように精進していきたいと思えます。最後に留学に際しご理解、多方面でのご高配をいただいた浅村尚生教授、医局の先生方、秘書の方々には感謝申し上げます。

帰室報告



慶應義塾大学医学部 外科(一般・消化器) 茂田 浩平 (85回)

平成30年12月より北川雄光教授のご高配にあずかり帰室いたしました85回生の茂田浩平と申します。私は平成18年に卒業し、初期臨床研修医として独立行政法人国立病院機構東京医療センターに入職、その後2年間の研修を経て平成20年より慶應外科学教室へ入局いたしました。

たしました。外科専修医としてD3は大和市立病院、D4は佐野厚生総合病院へ出張させていただき、外科医としての基礎を学びました。平成22年より一般・消化器外科に帰室し、長谷川博俊先生にお声をかけていただき腸班に所属することとなり、3年間大学でレジ

デント・チーフとして様々な先生方から臨床及び研究のご指導を賜りました。平成25年よりポストチーフとしてさいたま市立病院へ出張し、馬場秀雄先生のご指導の下、初めて自らの責任において大腸の腹腔鏡手術を執刀し、1人前の大腸外科医となるべく研鑽を積ま

せていただきました。2年間のポストチーフ出張を経て平成27年より1年間大学へ帰室し、さらなる腹腔鏡手術の修練を継続させていただきました。在任中に内視鏡外科技術認定医を取得させていただきました。平成28年度からは米国ボストンにあるMassachusetts General Hospital, Department of Radiation Oncologyへ基礎研究での留学の機会を与えていただき、腫瘍微小環境と腫瘍免疫の活性化というテーマで数多くの基礎研究プロジェクトに携わり、様々な知見を得る機会を頂きました。さらには、他大の外科から留学している先生方と交流することができ、自分にとって今後の大きな財産を得ることができたと感じております。そし

て、2年8か月の留学の後、帰室のご下命を拝し、日本へ帰国することとなりました。慶應外科学教室に入局してから10年以上が経ちましたが、他では得られない貴重な体験と外科医としての修練を積ませていただいたと感じております。このような機会を与えていただきました外科学教室および諸先生方、帰室にあたりご高配いただきました北川教授、尾原先生に厚く御礼申し上げます。今後は慶應外科の名に恥じぬように研鑽に努めていくとともに、後輩の先生方の模範となるべく精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

帰室報告



慶應義塾大学医学部 外科(一般・消化器) 外科 乳腺班) 永山 愛子 (86回)

2017年4月よりボストンのマサチューセッツ総合病院のがんセンターで2年間の研究留学をさせて頂き、2019年4月に助教として帰室致しました。私が所属していたBreast Research Laboratoryは乳癌の発癌メカニ

ズムから薬剤耐性に至るまで幅広く癌ゲノムの研究を行っており、私自身は開発中の新薬のバイオマーカー研究というテーマをもらいました。非常に期待度の大きな薬剤の研究でしたし、新規性に溢れるテーマで開

始できることは非常に嬉しく、意気揚々と開始したのが良かったのですが、基礎研究に関する知識や経験不足もあり、既存のデータも足らない中で手探りで研究生活に戸惑いを覚えることもありましたが、しかし、いい指

導者や仲間にも恵まれ、徐々に発想を柔軟に、新しいことに挑戦する研究そのもののやりがいを感じられるようになっていきました。研究のことが少しずつ理解できるようになってくると、研究室の仲間と色々な議論をすることも面白くなり、ほどなくコミュニケーションも苦ではなくなり、発表・質疑応答と

なるネイティブの人は言語面による部分だけでなく、幼少時からの教育でネイティブなどに慣れていて、非常に弁が立つということを痛感しました。人種間の文化差は米国では言語で明確に相手にメッセージを伝えることが重要視されており、時にユーモアを織り交ぜながら聴衆の興味を引くのが上手な人が多いものだと感じました。一方で、末筆となりましたが、留学に際し格別のご高配を承りました北川雄光教授並びに外科学教室刀林会の皆様にご心より御礼申し上げます。

ボストン留学記

帰室報告



加藤 源俊 (86回)

本年4月1日より外科学教室(小児)に帰室しました。平成23年度より外科学教室(小児)に帰室し、黒田達夫教授の下、1年間レジデントとして小児外科のいろはを学びました。平成24年度より東京国立小児総合医療センター、立小児総合医療センター、大和市立病院(竹下利夫先生、首藤昭彦先生)、さいたま市立病院(窪地淳先生、

積みましました。平成25年11月より再び大学に帰室し、レジデント・チーフとして、黒田教授、星野健前准教授、藤野明浩先生をはじめ多くの先生方から臨床・研究のご指導を賜りました。その後、再度東京国立小児総合医療センターに意向となりました。

山藤和夫先生)でご指導いただきました。平成23年度より外科学教室(小児)に帰室し、黒田達夫教授の下、1年間レジデントとして小児外科のいろはを学びました。平成24年度より東京国立小児総合医療センター、立小児総合医療センター、大和市立病院(竹下利夫先生、首藤昭彦先生)、さいたま市立病院(窪地淳先生、

窄症、喉頭気管食道裂などの希少な症例を経験しました。数多い症例の中、ひとつひとつの手術で学びを得られるよう精励しました。また、小児専門科や集中治療科などとの連携により、治療に難渋する症例に対しても緊密なチーム医療を発揮することができ、多くの未来ある子供達を救うことができました。

このような機会を与えていただいた外科学教室、諸先輩方に深く感謝申し上げます。これからは微力ながら教室へ貢献したいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻を賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

私の著書

「心臓血管外科手術のまずはここから」刊行にあたり



社会医療法人 愛仁会 明石医療センター 心臓血管低侵襲治療センター長 岡本 一真 (78回)

外科修練において最も重要なのは良きメンターであるが、サイドディッシュとして良き「教科書」も必須アイテムである。いわゆる「成書」の重要性に異論はないが、若手修練医にとつてはハードルが高い。彼らに魅力的なのは「マニュアル」や「ガイドブック」に近い、お手軽にかつ具体的な情報が得られる書籍である。私が刀林会員となり修練開始した頃は、「イラストレイテッド外科手術 膜の解剖からみた術式のポイント」を手術前に眺めるのがルーチンだった。20年経った今、Amazonで「消化器外科」で検索してみると、未だにベストセラーとして改版を重ねていることに驚いた。時代が変わっても修練医が求めるものは変わらないのだ。心臓血管外科修練では「心臓血管外科 Knack & Pitfalls」シリーズにとってもお世話になった。2年ほど前に、メジカルビュー社から今回のお話を頂いたときにまず頭に浮かんだのがこの本だった。

心臓血管外科修練医(心臓外科ではなく...)を対象に「Evidence based」でも「Experience based」も内容を「最前線にいる外科医」で執筆することである。心臓血管外科修練では最初に沢山の手術を経験できるのは心臓手術ではなく、内シヤント造設術や末梢血管バイパス、あるいは大股動脈の露出である。修練の入り口で自信を付けることが、その後の修練への登竜門ということ、この分野も豊富に盛り込まれている。心臓血管外科入門書と血管外科入門書が一緒になったテキストは実は存在しなかった。手術だけでなく、術後管理や緊急時の対応、薬剤の観点も修練医にとって重要だと考え項目を設けた。

執筆陣の選定については、既に各分野で実績を上げておられる第一人者ではあるものの、まだテキスト執筆歴のない方々を中心にお願い

した。学会などでの議論で自分と意見が合うことを重要な基準としたが、結果的に、その道の大家というよりは、その一歩手前で売り出し中の外科医達が思いの丈を書き込んで下さった。もちろん、刀林会員の皆様にもご尽力いただいた。特に、タイムアップ寸前になって原稿が完成しなかった章について、締め切りまで時間が無い中、急遽ピンチヒッターをお願いしたお二人が電光石火で素晴らしいかつ緻密な内容の原稿を書いて下さったことに感謝の気持ちで一杯である。やはり持つべきは頼りになる後輩だと再認識した次第である。

外科学(一般消化器)松田論と申します。2016年にチーフレジデントを終え、済生会横浜市東部病院へのポストチーフ出張、米国マサチューセッツ州エネラルホスピタル(MGH)への留学を経て、2019年4月より帰室いたしました。済生会横浜市東部病院におきましては、部長かつ



松田 諭 (87回)

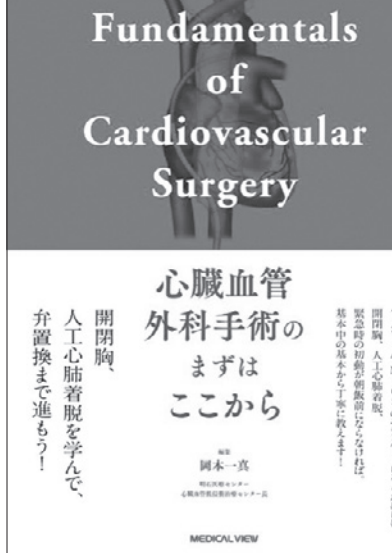
同じく上部消化管班の江川智久先生をはじめ多くの先輩方にご指導を頂き、専門臓器にとらわれることなく広く手術を学ばせていただきました。指導的立場での手術を数多く経験し、あらためて外科医として負うべき責任の重さを認識致しました。その後は、過去に川久保博文先生や林田哲先生

が、留学されたMGH Cancer centerへの留学の機会を頂き、世界各国から高い志をもって集まる癌研究者とともに、昼夜がんに細胞老化、サイトカインTGFβ、薬剤耐性に関する研究に従事いたしました。さらに、研究室全体のテーマである循環癌細胞関連のプロジェクトへのかわりを通して、リキッドバイオプシーにつき理解を深めることができました。臨床医学に関する学びにつきましては、刀林会の先輩であられます生駒成彦先生が活躍中のMDアンダーソンがんセンターをはじめ、米国、欧州においてロボット食道切除術を積極的に実行しておられる施設をそれぞれ見学させていただくことで、日本の外科医療の世

界における立ち位置を認識することができました。とくに、欧米と同じ興味をもって対話をする事の難しさも実感致しました。次第です。未だ帰室後間もない状態ではございますが、まずは担当する患者さんに満足して頂ける治療を提供することができそうです。チームの一員として精一杯努めて参りたいと思っております。また、これまでの学びを活かし、食道癌・胃癌の集学的治療における腫瘍モニタリングならびに薬剤耐性に焦点を当て、リキッドバイオプシーを用いた研究活動にも従事して参りたいと考えております。至らない点が多々あるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

「心臓血管外科手術のまずはここから」刊行にあたり

執筆陣の選定については、既に各分野で実績を上げておられる第一人者ではあるものの、まだテキスト執筆歴のない方々を中心にお願い



「心臓血管外科手術のまずはここから」編集 岡本 一真 出版社:メジカルビュー社 (2019/2/18)

# 病院紹介

## 荻窪病院



村井 信一（66回）

荻窪病院は杉並区にある252床（ICU8床）の中規模病院です。1933年、戦前に隼戦

闘機を製造していた中島飛行機株式会社の「東京工場医務室」として誕生し、戦後の財閥解体に伴い、荻窪

病院として独立した運営を開始し、1950年に、医療法人制度の制定にともない、「医療法人財団 荻窪病院」として運営を開始され、現在に至ります。

2017年度の年間総紹介件数10345件、月平均新入院患者数739名、平均在院日数8.5日、年間救急搬送患者数は4419件で、年間手術件数は4443件でした。

東京都地域医療支援病院、東京都災害拠点病院、東京都CCUネットワーク加盟施設、東京都大動脈スーパーネットワーク重点施設に指定されており、急性期に特化した病院といえます。

2013年に別館を増築し217床から252床へ増床しましたが、本年、日帰り手術室センターの新設、化学療法センターの拡大、リハビリセンターの拡大、脳卒中疾患対応強化に取り組んでおります。

外科は、消化器外科と心臓血管外科、脳神経外科にて構成しております。消化器外科においては、

腹腔鏡手術件数は、年間500例を超え、特に2009年より、単孔式腹腔鏡手術を幅広い術式に導入しております。癌に対する予定手術だけでなく急性腹症に対する緊急手術にもいち早く単孔式を含む腹腔鏡手術を積極的に取り入れております。当院ではフレッシュマンの教育を目的として開腹手術を選択することせず、フレッシュマンがアッペの手術を初めて行う際にも単孔式手術を教育するなど、腹腔鏡手術の勉強には最適の環境であります。開腹手術も一定数あるため、そのような症例ではフレッシュマンやポストチーフの先生に優先的に手術を担当して頂くなど開腹手術の指導にも最大限の配慮をしております。

また、悪性疾患の症例増加に伴い抗がん剤治療に関しても積極的に取り組んでおり、治療件数も増加してきております。

消化器外科の手術症例数は（2017年4月～2018年3月）889例（うち腹腔鏡下手術585例）です。主な手術の内訳は、胃癌27例、大腸癌124例、肝胆膵悪性20例、胆道良性181例、ヘルニア219例、虫垂炎126例、その他でした。

また、消化器外科のNCID登録件数（心臓血管外科を含まず）は、2017年1135件、2018年1094件でした。

構成メンバーは、村井信二（66回相当、病院長兼外科部長）、大住幸司（74回）矢部信成（77回相当）吉川貴久（82回）尾戸一平（83回相当）、岩間 望（90回相当）、小林恭子（96回相当、D3）、竹ノ谷隆（東京医科大学）の8名体制で、刀林会員は、7名です。

心臓血管外科においては、心臓のバイパス手術や弁膜症手術、大動脈瘤手術などを行っております。特に自己心膜を利用した大動脈弁再建術（AValve）を積極的に行っております。

心臓血管外科の手術症例は（2017年1月～12月）136例、（2018年1月～12月）128例です。

また、心臓血管外科のNCID登録件数は、2017年194件、2018年183件でした。構成メンバーは、澤 重治（62回相当、部長）、藤井 奨（68回相当）、浅野竜太（80回相当）の3名の刀林会員による常勤体制で運営しております。

脳神経外科は、中野幸照（61回、部長）の1名体制で孤軍奮闘しております。

252床と慶應関連病院の中においては、比較的、規模の小さな病院ではありますが、その臨床能力においては、常に500床規模の病院に相当する医療を提供しようと努力を続けております。また、学生教育ならびに初期後期の臨床研修医の教育にも、全力で力を注いでおりますので、今後刀林会の先生方の御指導、御支援を引き続き御願ひ申し上げます。



地域便り

宇都宮市 (健康長寿のために)



木曾 一誠 (44回)

宇都宮にきて43年にな... 米留学後に心臓血管外科... 29年間心臓血管外科医、65歳定年後は内科医となる。

も多い。高齢者は1人で入浴しない、家族などが見守りをする、飲酒後血圧低下の状態では入浴は避けるなど予防策を講じている。

副作用は薬局がだす説明書にも書いてあるが、きわめて稀でEBMも確立してない場合は記載がないこともある。副作用は投薬直後ではなく数か月後、数年

後に発症する例さえある。さらに長年安全に使用されてきた薬剤でも突然重篤な副作用の報告がでることもある。たとえば約40年前、長期にわたって多くの医師が処方していた下剤(ソルベン)は発がん性が報告されて、動物実験でも検証されたので発売元が製造販売を中止した事例もある。

入浴事故の多くは予防できる。交通事故は努力すれば減らすことはできる。しかし薬剤による重篤副作用は予知できない場合が多い。健康長寿を目指すには高齢ではとくに薬はできるだけ少ない方がいいと私は思っている。これからの私の医療活動で大切なテーマになりそう。

東京から遙か遠く離れた熊本県。有名なものと言ったら「くまモン」くらいしか思いつかない熊本県。その熊本のど真ん中に私が勤める「大腸肛門病センター高野病院」があります。



高野 正太 (78回)

大腸肛門病センター高野病院

地域便り

事故死は浴槽内の高温のため血管が拡張し低血圧となり失神し結果として浴槽内で溺水するパターンが大

も多い。高齢者は1人で入浴しない、家族などが見守りをする、飲酒後血圧低下の状態では入浴は避けるなど予防策を講じている。

避けたい不慮の事故に高齢での交通事故がある。慶大外科の2人の先輩のことを思いだす。1人は自宅近くで毎朝のジョギング中、他の1人はお酒のみで忘年会のあと一人で帰宅途中に事故にあつた例だ。

最近一番気になっているのは薬の重篤な副作用だ。わたしの2人の友人が薬剤の副作用で「間質性肺炎」に罹患し、ともに1年余りで亡くなつてい

皆さん、直腸肛門の機能障害って何だか分かりますか？私は高野病院で働き始めるまで全く知りませんでした。便秘、機能性直腸肛門痛が代表的です。あまり他院では行っていない肛門内圧、直腸肛門感覚などの直腸肛門機能検査を各種行っています。例えば、難治性の便秘を訴えて来院した場合、便秘困難

難(Obscured Defecation Syndrome)を考え、おしりからバリウムを直腸に注入し透視台で排出してもらい、直腸肛門の動きや形状を確認する排便造影(defecography)を行います。高野病院で働き始めたとき「なんて事を患者さんにさせるんだ。どう考えても恥ずかしいだろ」とびっくりしましたが、今は何の抵抗もなく毎日のようにオーダーしています。排便造影の結果を見て、バルーンを用いた排出訓練や肛門内圧を用いたバイオフィードバックを行います。その他、脛骨神経刺激療法や脊髄刺激療法など、直腸肛門領域では他の施設ではなかなか行っていない治療法もいち早く取り入れてい

また当院ではISRを始めとする大腸癌に対する手術やクローン病などの炎症性腸疾患に対する内科的治療、上部および下部消化管内視鏡検査も数多く行っています。片田舎の病院ですが、皆さんが手を付けられないような領域に着目し、「隙間産業」していますので、今後とも宜しくお願い致します。

それと余談ですが、「ホワイトプレイヤー」というイケメンドクター5人組が活躍するマンガのメインキャラクターのモデルになりました。ネットでタダで閲覧できるのでアクセスしてみてください。



「ホワイトプレイヤー」大腸肛門科医 弥勒院 涼太



追 悼

安藤幸史先生を偲んで

(平成17年から平成19年 刀林会理事長)

浜松赤十字病院 院長

奥田 康一 (59回)

安藤幸史先生(45回)におかれましては、平成31年1月28日突然ご逝去されました。ここにあらためて追悼の意を表し、生前の温かいご指導に対し御礼申し上げます。

という概念の必要性を説き災害時救急医療の発展にも多大な貢献をされました。私自身は昭和56年に卒後2年目の出張で静岡赤十字病院へ赴任し、1年間安藤先生の薫陶を受け、大学に戻ってからも同じ一般・消化器外科の腸班に所属することになりました。まさに生涯の恩人です。昭和61年に外科のチーフ出張として大学から出向する時に静岡赤十字病院を希望しておりましたが、運命のいたずらもあり空席ができた浜松赤十字病院に着任しました。同じ静岡県でもあり、安藤先生が主催されていま

腕を振るわれ、狭くて古かった中区高林の旧病院から浜北区小林の新病院への移転新築事業を成し遂げられました。さらに対外的にも活躍の場を広げられ、静岡県医師会では副会長を経て平成21年から会長職を2年間務められました。また、県医師会の理事や社会保険診療報酬支払い基金の審査委員長、県の審議会や協議会の委員も多数歴任されました。平成23年には名誉院長になられ、長年の社会貢献に対して平成26年春の叙勲で瑞宝小綬章を受賞されました。

安藤先生は温厚実直で高潔な人柄から誰からも慕われ、一方では、その高い志から強力なリーダーシップを発揮され組織を牽引されました。類まれなる才能と絶え間ない努力により築かれた成果は憧れというよりも驚嘆と云っていいかもしれません。

安藤先生、長い間私どもをお導きいただき誠にありがとうございました。これからもどうぞごゆっくりお休みなついでに上げます。ようお祈り申し上げます。

安藤先生、長い間私どもをお導きいただき誠にありがとうございました。これからもどうぞごゆっくりお休みなついでに上げます。ようお祈り申し上げます。

安藤先生、長い間私どもをお導きいただき誠にありがとうございました。これからもどうぞごゆっくりお休みなついでに上げます。ようお祈り申し上げます。



浜松転勤後は病院長として辣

近況報告

45回生



蓮見 昭武 (45回)

名古屋市郊外にある藤田保健衛生大学(現・藤田医科大学) 消化器外科を約

15年前に定年退職し、その後名古屋に留まって、健診業務や介護施設のお手伝いなどの形でささやかながら地域医療に携わっています。健康維持の目的で50歳代から始めた山登りを今でも月に数回継続しながら、自然を楽しんでおりますが、体力の衰えは如何ともし難く、今後は体調相応の低山歩きを楽しみたいと思っております。



関 惇 (45回)

全国的なインターン運動のS41卒の私は、医局長のご配慮で外科に入れていただきました。研究室には属しませんでしたが諸先輩のご指導のもと、外科医として一応つつがなく仕事を終えることができました。また

た、地区医師会の副会長、幹事、都医師会編集委員、順天堂医学部父母会会長を務めました。北島先生の愛弟子の東京医科歯科大学肝胆膵外科の田邊 稔教授に、5年前に肝門部の大変難しい手術をして頂き5生率30%のところを6年目を迎え、今は骨転移の加療中です。その間、70から47キロに筋肉量が落ちフレイルとなり、十数年来妻と二人だけの週二回の楽しいゴルフも夢のまた夢となつてしまいました。

刀林会の先生方にはあらためて感謝申し上げます。

このたびは刀林会新聞「なでしこ外科医」への寄稿の機会をあたえていただきありがとうございます。79回相当の高橋麻衣子です。2000年に外科学教室へ入局しフレマン生活が始まりました。ついていくだけで精一杯の毎日でしたが、家族以上に濃厚で長い時間を過ごすチーフ・レジデントの先生の背中を見ながら慶大外科のチーム医療のすばらしさを学びました。フ

レマン終了後に出向した静岡赤十字病院・国立霞ヶ浦病院では、本当に手取り足取り外科医の基礎を叩き込んでいただき、医者という仕事の楽しさと素晴らしさを実感するとともに、大きな責任と怖さも感じました。女性外科医はまだ少な



高橋 麻衣子 (79回相当)

いたきました。また乳腺疾患以外からも学んだ様々な「慶大外科のあきらめない医療」は、現在の私の診療に大きな影響を与えています。私はこの大切な修練期間に出産をしましたが、前例がないなかで何とか修練を継続できるように最大のサポート体制をとってくださった先生方に心より感謝しております。ポストチーフとして出向した聖母病院においても子育て可能な環境を整えて頂いた上

で、乳腺外科医としての経験を積ませていただき、その後2008年に乳腺班の若手スタッフとして慶應へ入室し現在に至ります。外科医の道を選びあつたという間に19年が経ちましたが、歳を重ねるごとにこの仕事の面白さとやりがいを実感します。臨床経験が増えるからこそ新たな発見や工夫をし、次のステップに行けるように、医学の進歩に置いていかれないように努力する。本心に終わりのない道です。間違いなく私の人生の大きな部分を占めており、このような職業につけたことを本当に幸せに感じます。そしてこの気持

ちは沢山の周りの方のサポートがあり、何とか外科医を続けてきたからこそ得られるものであり、次の世代の女性医師に継続するから得られるこの思いを伝えていくことも私の役目であると思っております。



なでしこ外科医

診療体系グループ紹介

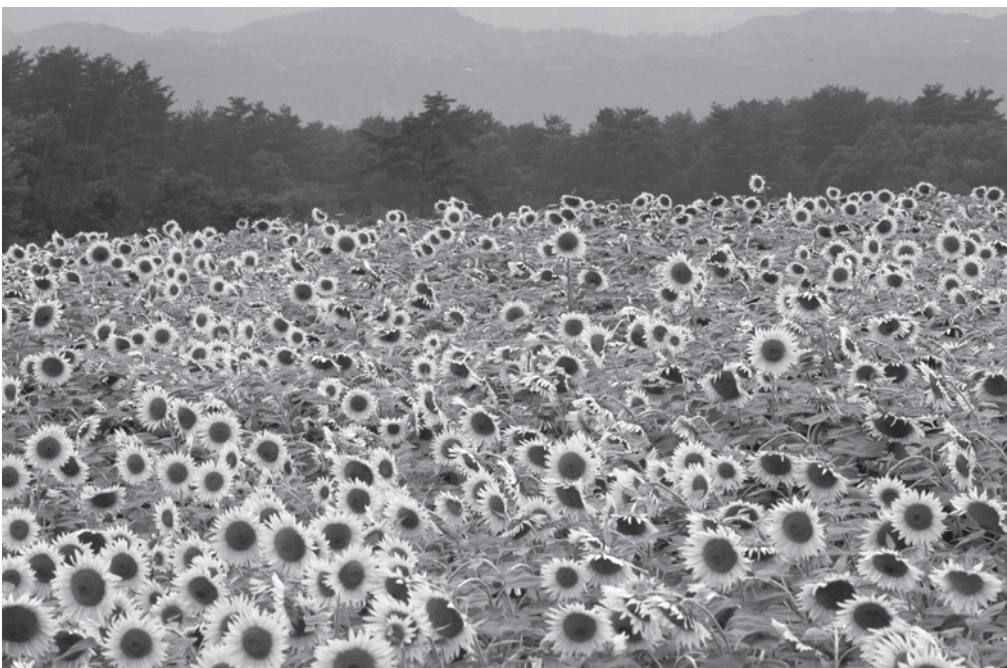
一般・消化器外科 腸班



岡林 剛史 (78回)

長きに渡り腸班を牽引して下さった長谷川博俊先生(66回)が、2018年4月から東京歯科大学市川総合病院へと移られました。

その後、岡林剛史(78回)が腸班の班長を引き継がせていただくこととなり、鶴田雅士(79回)、茂田浩平(85回)、清島亮(86回)



のスタッフ4人体制で診療・研究を行っております。長谷川先生の功績を考えれば、腸班にとってこの状況は大ピンチであります。しかしながら、スタッフが大きく若返ったことはむしろ飛躍への大きなチャンスととらえ、若いメンバーで新しいことに積極的にチャレンジしていきたいと思っています。

臨床上の新しい取り組みとしては、ロボット手術や3DCTなどの新規技術に加えて、3D血管構築を用いたナビゲーション手術、クローン病に対する術中小腸内視鏡検査などが挙げられます。3D血管構築を用いたナビゲーション手術は、解剖に対する知識を深める教育的効果も高く、レジデント教育にも一役買っていると感じています。また、クローン病に対する術中小腸内視鏡検査は消化器内科と協力して行っており、これをきっかけに消化器内科との研究協力体制が強化されてきています。今後はこれらの新規的技術だけでなく、一般病院では取り組みにくい骨盤内臓器全

摘術などの高難度・高侵襲手術にも積極的に挑戦して行きたいと考えています。ここ数年、研究においても、Nature, Annals of Surgery, British Journal of Surgeryといった一流誌に採択される機会がありました。この流れを維持し、留学から帰室した茂田・清島を中心に戻すます活発に研究活動を行っていききたいと思

大規模な多施設共同研究ばかりに注目が集まる昨今ではありますが、症例ごとの小さな差異に着目し、しつかりとした「目」を持つた外科医を育成することも重要です。まさに腹腔鏡下手術の始まりがそうであったように、福澤先生の言葉にある「古来文明の進歩、その初は皆所謂異端妄説に起らざるものなし」の精神で、困難に負けずに突き進むことのできる外科医を育成し、腸班として100周年を迎える慶大外科を益々盛り上げていきたいと思

開業

たかはしファミリークリニック

高橋 秀奈 (87回)

この度、北川雄光教授をはじめ、刀林会の先生方のご支援を賜り平成31年1月15日、東武東上線川越市駅から徒歩15分の地に、たかはしファミリークリニックを開院させていただきました。

さいたま市立病院、川崎市立病院で経験を積ませていただきました。卒後10年、ご指導いただきました諸先生方に感謝のしよもございませぬ。心より御礼申し上げます。

私は外科学教室入室後、1年目出張で東京都済生会中央病院、2年目でNHQ東京医療センター、一般消化器外科での研修後は、

私の生まれ故郷でもあります川越市は、埼玉県南西部に位置する人口約35万人の市で、都心から約30分圏に位置する場所にあります。江戸時代に川越城の城下町として繁栄したことに

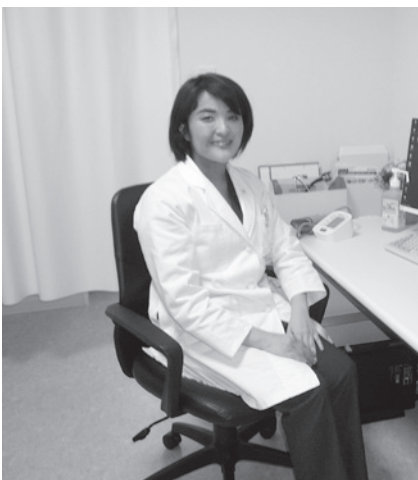
よって、小江戸と呼ばれる様になり、現在では都内から約1時間とアクセスの良さから蔵造りや時の鐘などを中心に年間600万の観光客の訪れる、ちょっとした観光地であり、また都内へのベッドタウンとしての側面もある市です。

クは観光地中心地から徒歩約15分、小学校近くの静かな住宅街に位置しております。ファミリークリニックの名の通り、子供から高齢の方まで、また様々な国籍の患者さんがいらつしやいます。家庭医としての診療に奮闘しつつ、肛門疾患の診察や、上部消化管内視鏡・下部消化管内視鏡検査を行っております。特に女医診察を希望されて来院する大腸・肛門の疾患でお悩みの女性患者さんが想像より多く、驚いております。



今まで大学や関連病院で諸先輩よりいただいたご指導の一つ一つが毎日の診療の根幹となっており、開業してまた改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

まだ開院して3ヶ月ではありますが、外科医としての経験を活かし、地域の患者さんの健康維持に少しでも貢献すべく邁進して参りたいと思っております。これからどうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



下町として繁栄したことに

まだ開院して3ヶ月では

慶應病院 外来 外科担当表

初診外来(午前)

一般・消化器外科

北川雄光 篠田昌宏 和田則仁 尾原秀明 北郷実 川久保博文

小児外科

黒田達夫 黒田達夫 黒田達夫 交代制

加藤源俊 加藤源俊 藤村匠 藤村匠

心臓血管外科

伊藤努 山崎真敬 木村成卓 志水秀行 川合雄二郎 高橋辰郎 赤松雄太

呼吸器外科

朝倉啓介 浅村尚生 政井恭兵 加勢田馨 浅村尚生

脳神経外科

大平貴之 佐々木光 三輪点 高橋里史 戸田正博 吉田一成 堀山武紀 秋山武紀 高橋里史

◎印 診療部長 ○印 診療副部長

特殊外来(午後)

月 血管 松原健太郎

火 肝胆膵 北郷実

水 腸 尾原秀明

木 乳腺 岡林剛史

火 食道・胃 高橋麻衣子

木 肝膵・移植 入野誠之

金 肝膵・移植 八木洋

土 乳腺 尾原秀明

月 小児 松原健太郎

火 小児 林田哲

水 小児 岡林剛史

木 小児 高橋麻衣子

火 小児 高橋麻衣子

土 小児 高橋麻衣子

月 小児 高橋麻衣子

火 小児 高橋麻衣子

水 小児 高橋麻衣子

木 小児 高橋麻衣子

火 小児 高橋麻衣子

土 小児 高橋麻衣子

月 小児 高橋麻衣子

火 小児 高橋麻衣子

水 小児 高橋麻衣子

肝膵・移植 堀周太郎 尾原秀明 松原健太郎 呼吸器 菱田智之 脳・定位放射線(第1) 小林正人

金 腸 鶴田雅士 岡林剛史 清島亮 茂田浩平

機能疾患・パーキンソン病(月1回) 大平貴之

脳血管障害 堀口崇

脳神経(第1・3・5) 秋山武紀

小児 狩野元宏

呼吸器 交代制

食道・胃 川久保博文

小児 藤野明浩

胃 古川俊治

乳腺 林田哲

血管 尾原秀明

計 報

森田 淳君(38回) 平成31年1月10日 安藤 幸史君(45回) 平成31年1月28日 天羽 道男君(39回相当) 平成31年2月16日 大城 兼光君(37回相当) 平成31年2月20日 菅谷 英一君(32回) 平成31年4月12日 中川 自夫君(38回) 平成31年4月13日 中川 活治君(30回) 令和元年5月5日 北島 政樹君(45回) 令和元年5月21日

お詫びと訂正 112号 13ページ 近況報告(43・44回生) 青木亮一先生の記事中誤字がございました。お詫びして、訂正させていただきます。大変申し訳ございませんでした。 本文2行目(誤) 転職 ↓(正) 天職

編集委員

委員長 川村 雅文 副委員長 石井 良幸 顧問 佐藤 周三 顧問 磯部 陽三 顧問 小澤 壯治 顧問 古梶 清和 委員 儀賀 理暁 齋藤 淳一 藤野 明浩 大塚 崇 下島 直樹 落合 大樹 吉武 明弘 木村 成卓 鶴田 雅士 中村 恵子 松本 暁子

編集後記

慶應義塾大学名誉教授 北島政樹先生がご逝去されました。最近も刀林会関連の会議でお見掛けし非常にお元気であったので大変驚いた。北島先生は非常に威厳のある先生で、おられたが、厳しだけではなく、自分が研修医の時に先生の外来にネーベンとしてつかせていただいた際に非常にお優しくしていただいたことを今でも覚えています。一外科医として、そして慶應義塾の後輩として、謹んで北島先生のご冥福をお祈り申し上げます。 N・K

人事異動

細田洋一郎(50回) JCHO埼玉メデイカルセンター名誉院長 就任 上野 滋(57回) 東海大学名誉教授就任 眞廣 莊太郎(57回) 東海大学消化器外科教授退任 渡邊 昌彦(58回) 北里大学北里研究所病院 院長就任 金井 歳雄(59回) 川崎市立川崎病院院長就任 佐藤 宏喜(62回相当) 水戸赤十字病院院長就任 木下 貴之(67回) 東京医療センター副院長就任 伊藤 努(68回) 慶應義塾大学医学部外科(心臓血管) 准教授就任 隈元 雄介(69回) 北里大学医学部一般・小児・肝胆膵外科教授就任 山本聖一郎(70回) 東海大学医学部外科教授就任 原田 裕久(71回) 済生会中央病院副院長就任 大塚 崇(75回) 東京慈恵会医科大学外科学講座 呼吸器 乳腺・内分泌外科分野教授就任 渡辺 稔彦(75回) 東海大学医学部外科学系小児外科学教授 須田 康一(79回) 藤田医科大学医学部総合消化器外科学臨床 教授就任

刀林会会員管理システムについて 郵便物発送先、一斉メールにてのお知らせなど「刀林会会員管理システム」にておこなっております。 メールアドレス、ご勤務先、ご自宅住所などのご変更があった場合は、ご自身にてアップデートしていただくことをお願いいたします。

開業についてのお知らせ 開業の際は、同窓会へご連絡をお願いいたします。 記念に刀林会より盾を進呈いたします。 よろしくお祈りいたします。 <刀林会 事務局> 〒160-8582 新宿区信濃町35 慶應義塾大学医学部外科同窓会事務局 TEL: 03-5363-3800 FAX: 03-3359-9130 tourin-h@keio.jp

刀林賞募集 刀林賞は、刀林会の以下の優れた業績に対して授与されます。奮ってご応募ください。 一、臨床的研究 二、臨床上、有用な基礎的研究 三、医学上の社会活動に関する研究 四、本会の発展に著しく貢献したと考えられる業績 刀林会刀林賞 毎年1編以内 副賞: 50万円 刀林会奨励賞 毎年2編以内 副賞: 10万円 応募資格 一、査読システムのある医学雑誌に、当該選考年の11月30日までの直近2年間に、掲載又は掲載確定となった学術論文の筆頭著者 二、刀林賞受賞歴のない者 三、刀林会会費完納者 ただし、医学上の社会活動に関する研究、本会の発展に著しく貢献したと考えられる業績に関しては、応募資格一、二の限りではありません。 応募方法 一、毎年7月1日から11月30日までの間に、応募用紙(ダウンロード)を用いて応募する。 二、前項記載の応募用紙は、本会ホームページ記載のものをダウンロードして用いる。 三、応募者の指導者ないし、指導教授1名の推薦状(書式: 応募用紙中)を要する。 受賞者は、6月の総会にて表彰されます。また、刀林新聞に論文の概要が掲載されます。 選考方法などは、刀林賞規則をご参照ください。 刀林会HPに掲載されています。 ご質問等ございましたら、外科同窓会までご連絡ください。 (tourin-h@keio.jp) 以上